

T12b

## かみのけ座銀河団の高温ガスの温度分布の非一様性 II

渡辺 学、山下 広順、吉岡 努、中条 徳雄（名古屋大学理学部）  
本多 博彦（宇宙科学研究所）他「あすか」チーム

かみのけ座銀河団は、 $z = 0.0235$  とかなり近傍にある銀河団である。X線の輝度分布はほぼ軸対称な形をしており、等温球対称を仮定して得られる  $\beta$ -モデルによく合っていることから、これまでは力学的によく緩和した銀河団の典型的な例とされてきた。しかし、最近になって、著者らによって、X線天文衛星 *ASCA* で14ポインティング観測されたデータ（直径 $\sim 2$ 度の範囲をカバーしている）を、直径30分角の領域に区切った領域でプラズマ温度を求めた結果、南西と北東の領域で、中心とプラズマ温度が有意に異なる領域があることが、1995年の春の学会で報告された。今回の講演では、主に銀河団の中心から半径30分角の領域のデータをさらに細かい領域に分けて得られたプラズマ温度の分布について報告する。

このように、かみのけ座銀河団が力学的に緩和していないという証拠は、最近の銀河の観測からも指摘されている。新しく得られた243個を含めた、total 552個のかみのけ座銀河団内の銀河の後退速度を用いて、銀河団の中心付近の速度分散を調べた結果、この銀河団の中心付近で2つの速度成分があることが分かってきた。この結果と、今回得られたプラズマガスの温度分布より、かみのけ座銀河団はこれまで考えられていたように、力学的によく緩和した銀河団ではなく、いままさにマーキングが起こしている最中の銀河団であると結論づけた。